

# 孟宗竹の雪害対策及び荒廃竹林復元技術

森林研究研修センター

## 研究のねらい

近年の地元産タケノコの需要の高まりを受け、生産拡大と安定供給が望まれているが、雪折れ対策や、管理できなくなり高密度化した栽培林の広がり、生産拡大の妨げになっている。そこで、本県の気象条件に適した、雪害対策技術及び荒廃竹林復元対策技術を明らかにした。

## 研究の成果

- ① 雪害対策：雪害による親竹本数の減少は、翌年以降のタケノコ生産に影響を及ぼすため、ウラ止め<sup>※</sup>を実施することで、雪害が防止できる（表1）。また、ウラ止め未実施の高密度林を間伐して適正密度にすると、大きく雪害が発生することがあるため、間伐はウラ止めとセットで実施する必要がある。
- ② 荒廃竹林の復元：荒廃竹林（一度管理できなくなり高密度化した竹林）を伐採して栽培林に復元する方法は、列状伐採が最も適している。抜伐り伐採による復元は、作業性が悪く、雪害が発生しやすいため、本県には適さない。なお、皆伐は、復元に長期間を要す（図1）。

上記の内容を含め、「栽培林編」「生産物編」「荒廃竹林復元編」からなる「孟宗竹栽培管理マニュアル（山形県版）」を作成した（写真1：森林研究研修センターのホームページに掲載）。

※ウラ止め：タケノコが成長して竹になる途中、先端の部分を折る等の方法で高さを制限する。

表1 ウラ止めの有無と雪害本数

	ウラ止め有り	ウラ止め無し
雪害あり	9	135
雪害あり	145	375



写真1 栽培管理マニュアル

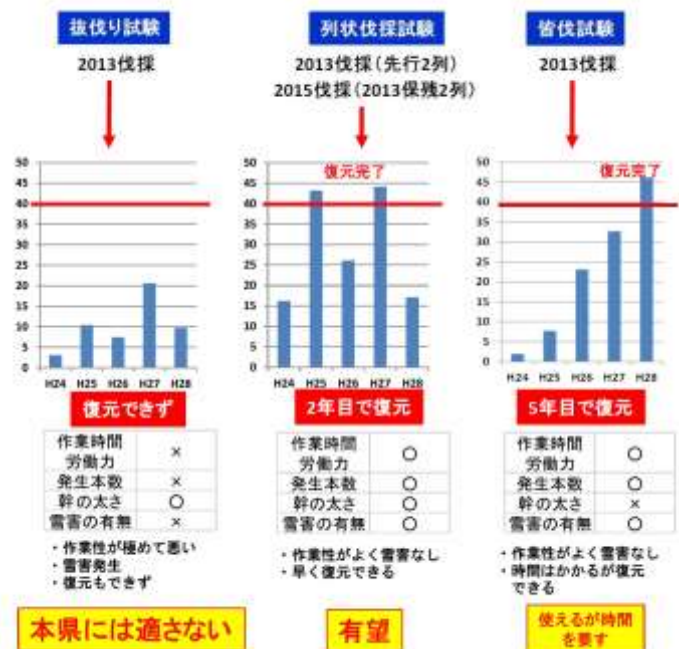


図1 復元方法の体系化

問い合わせ先：森林生態保全部 TEL：0237-84-4301 e-mail：yshinrinse@pref.yamagata.jp